

支援機器等教材活用実践事例フォーマット

実践年度・タイトル		平成(30)年度
		タブレットPCの音声読み上げ、ハイライト機能による支援
授業について	教科名等	<input checked="" type="checkbox"/> 国語 <input type="checkbox"/> 社会 <input type="checkbox"/> 算数/数学 <input type="checkbox"/> 理科 <input type="checkbox"/> 生活 <input type="checkbox"/> 音楽 <input type="checkbox"/> 図画工作/美術 <input type="checkbox"/> 家庭/技術・家庭 <input type="checkbox"/> 体育/保健体育 <input type="checkbox"/> 特別の教科 道徳 <input type="checkbox"/> 外国語/外国語活動 <input type="checkbox"/> 総合的な学習の時間 <input type="checkbox"/> 特別活動 <input type="checkbox"/> 自立活動 <input type="checkbox"/> 各教科等を合わせた指導 <input type="checkbox"/> その他の教科 <input type="checkbox"/> その他()
	単元・題材名	物語文・忘れられないおくりもの
	授業の目標	・場面の様子や登場人物の心の動きを想像しながら読み、話のおもしろさを読み取ることができる。 ・読み取った内容について自分の考えをまとめ、一人一人の感じ方に違いがあることに気づくことができる。
	学力の3要素	<input checked="" type="checkbox"/> 「知識及び技能」 <input checked="" type="checkbox"/> 「思考力・判断力・表現力等」 <input checked="" type="checkbox"/> 主体的に学習に取り組む態度」
学習集団と子供の実態	学校・学部・学年・人数	<input checked="" type="checkbox"/> 通常の学級 <input type="checkbox"/> 通級による指導 <input type="checkbox"/> 特別支援学級 <input type="checkbox"/> 特別支援学校 <input type="checkbox"/> 就学前 <input checked="" type="checkbox"/> 小学生 <input type="checkbox"/> 中学生 <input type="checkbox"/> 高校生以降 <input type="checkbox"/> 特定されない (3)年 (34)人
	対象の障害	<input type="checkbox"/> 視覚障害 <input type="checkbox"/> 聴覚障害 <input type="checkbox"/> 知的障害 <input type="checkbox"/> 肢体不自由 <input type="checkbox"/> 病弱・身体虚弱 <input type="checkbox"/> 言語障害 <input type="checkbox"/> 自閉症 <input type="checkbox"/> 情緒障害 <input checked="" type="checkbox"/> LD(学習障害) <input checked="" type="checkbox"/> ADHD(注意欠陥/多動性障害) <input type="checkbox"/> その他
	子供の困難さ	<input checked="" type="checkbox"/> 見ること <input type="checkbox"/> 聞くこと <input checked="" type="checkbox"/> 話すこと <input checked="" type="checkbox"/> 読むこと <input checked="" type="checkbox"/> 書くこと <input type="checkbox"/> 動くこと <input type="checkbox"/> コミュニケーションをすること <input type="checkbox"/> 気持ちを表現すること <input type="checkbox"/> 落ち着くこと・集中すること <input type="checkbox"/> 概念(時間、大きさ等)を理解すること <input type="checkbox"/> 学習(計算、推論等)すること <input type="checkbox"/> その他 読み書き、特に新出漢字や文章を書くことが定着しない状況であった。 板書や作文等の書字、文章の構成に困難を抱えている。 長文を読むことに時間がかかり、疲れやすい。
支援機器等教材の活用について	活用の意図	Aコミュニケーション支援(<input type="checkbox"/> A1意思伝達支援 <input type="checkbox"/> A2遠隔コミュニケーション支援) B活動支援(<input type="checkbox"/> B1情報入手支援 <input type="checkbox"/> B2機器操作支援 <input type="checkbox"/> B3時間支援) C学習支援(<input checked="" type="checkbox"/> C1教科学習支援 <input type="checkbox"/> C2認知発達支援 <input type="checkbox"/> C3社会生活支援) D実態把握支援(<input type="checkbox"/> D1実態把握支援) 物語文の内容を理解するために、紙媒体の文字では読みにくさがあり、他の児童と同じ時間で読むことが困難であるため、音声読み上げ機能を使い(OMLETよめるんです)、内容を理解することができるようにする。また、グループでの話し合いの場面で、読み取った文章を探すのに時間がかかるため、ハイライト機能で印をつけ、他の児童の意見を聞いて、重要だと認識した部分にも話を聞きながら、ハイライトを追加した。
	使用した支援機器等教材の名称と画像	支援機器:iPad アプリケーション:OCR(紙の文字をデジタルテキスト化) アプリケーション:OMLETよめるんです(音声読み上げ機能) アプリケーション:メモ・ハイライト機能 ノイズキャンセリングイヤフォン  図1 音声読み上
授業展開	授業展開・支援の手立て	めあて 「あなぐまの死を知った友だちはどのような気持ちになったのだろう」を確認する。 ・iosアプリケーション「よめるんですOMLET」を使用して、教科書の朗読をイヤフォンで聞く(内容理解):図1 *教科書を読む時に、教科書で朗読するまたは、iPadを使用して教科書の内容を聞くのどちらにするかを自分で選択する。 この時間は、34人中11人の児童がiPadを使用していた。 ・iPadを立てかけ、ハイライトを付け、画面をみんなで見ながら、意見を交換した。 :図2  図2 ハイライト機能
効果・評価	子供の様子や変容および授業の評価	教科書の物語文(フォント18.0ポイント)を読むと疲れを感じ、一度に読み上げることができない。音声支援機能を使い、他の児童と同じような時間で文章を音声で理解した。その後のグループ活動では、内容に関する記述が見られ、文章から読みとった情景から、登場人物の心の動きや変化を理解する発言が見られ、活動のねらいが達成された。本文から文章を探す時に、他の児童が意見した文章をハイライトで示すことで、共有しながら話し合いをすることができた。